

多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル : 百間川分流部における地域と連携した多自然川づくりについて			
水系 / 河 川 名 : 旭川水系 百間川		河 川 分 類 : 大河川	
河川の流域面積: 1810km ²		整備計画流量: 2000m ³ /s(W=1/50)	セグメント: 2-1
事 業 : 河川改修		事業開始年度 平成26年度	
目 標 設 定 : 定性的		段 階 : D(実施・施工時)	
課題・目的(主な): 貴重種・特定動植物の保全、水際域の保全・再生・創出、その他			
工 法 (主 な): 護岸整備、移植、植樹			
配慮事項(主な): 河川景観への配慮、歴史・文化への配慮、人材育成			

背景・課題、目標設定

〈背景・目標〉

岡山河川事務所では平成26年度より工事に着手しております。改修に伴って分流部は大きく改変してきましたが、その中でも歴史や自然に配慮した整備を進めております。百間川分流部は、岡山市民にとっての憩いの場であり、また学びの場でもあります。日頃より、地域住民の方々にもボランティアで除草や草木の手入れを行って頂き、官民一体となって百間川を守っています。また、百間川には絶滅危惧種にも指定されている希少な動植物が生存しており、生物の住処としても大切な環境です。

親水空間として地域住民の方々に利用していただけるように、また豊かな自然環境を保全・再生するという目的で、事務所の若手職員を中心に多自然川づくり勉強会を開催したり、魚類・植物の移植や生物のモニタリング調査などを市民と協働で行ってまいりました。このような地域と連携した取り組みを通じて河川に興味・関心を持っていただき、自然再生だけでなく、維持管理も含めた持続的な活動へとつなげていくことが百間川分流部の多自然川づくりの目標の一つです。

取り組み内容・対策例

■分流部各エリアにおける

施工時の環境配慮

〈せせらぎ水路・ホタル池エリア〉

玉石設置、親水護岸、バープエ

〈背割堤・明星堰エリア〉

捨石護岸、環境モニタリング調査

〈二の荒手エリア〉

玉石設置、落差工



オニバス



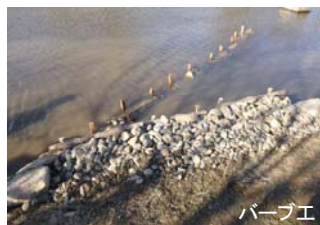
玉石設置

■地域住民との取り組み

- ・せせらぎ水路への魚類、底生動物の移植
- ・明星堰における生物調査
- ・希少植物「オニバス」の移植

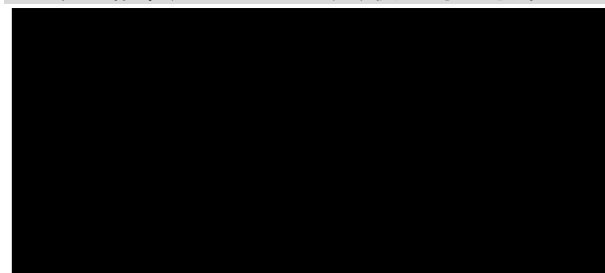


捨石護岸



バープエ

モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針



モニタリング調査結果

水路の付け替えに伴う魚類・底生動物の移植作業では地域住民200名以上が参加し、4000個体を移植させることが出来ました。また、その後のアンケート調査においても9割以上の方々より「また参加したい」とご回答を頂きました。またその他のイベントにおいても、大学の先生や学生の協力のもと地元の子供たちと一緒に作業を行っており、こうしたイベントを通じて川と触れ合い、少しでも河川に興味を持って頂けるような取り組みを行っております。

施工後より実施しているモニタリング調査では生物の定着が確認されており(H27年度7種→H28年度12種)、捨石護岸などの効果が反映されていると考えられます。今後とも引き続きモニタリング調査を実施していくとともに、地域住民と一緒に百間川の整備を続けていく予定です。



地域住民とのイベント

備考

問い合わせ先	国土交通省 中国地方整備局 岡山河川事務所 工務課
電話番号	086-223-5184

百間川分流部における地域と連携した多自然川づくりについて

Keywords : 地域連携, 石材の利用, 動植物の移植

●施工上の工夫

石材を用いて、生物の住処を創出。また、玉石やバープ工などを設置し、川に動きを付ける。



玉石の設置



捨石護岸

●地域との取り組み

地域住民の方々と一緒に、生物の移植などの自然を保護する取り組みを実施。



地元の協力



お魚のお引越し

岡山市内を走る百間川。1級河川旭川本川から分岐する分流部地点では、オニバスやニホンウナギといった絶滅危惧種が生息する。また、四季折々の自然を楽しめる空間で、憩いの場として地域住民から親しまれている。平成26年度からの改修工事に伴い、自然再生イベントを地元と一緒に取り組み、後世へと続く多自然川づくりを実施している。